

1 学校教育目標

基本的人権の尊重に基づき、生徒一人一人に対して深い愛情と理解を持って、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行い、徳（豊かな人間性）・体（健康と体力）・知（確かな学力）の調和の取れた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。
また、郷土に思いを馳せ、生涯にわたって郷土に誇りを持てる人材に育てる。

2 本年度の重点目標

- (1) 確かな学力を育成し、自己実現を図る態度を育む
 ア 主体的・対話的で深い学びの中で思考力、判断力、表現力を育むとともに、生涯にわたって学び続ける態度を養う。
 イ 生徒一人一人に応じた指導・支援を実践し、学力の基礎・基本を定着させる。
 ※1人1台端末等を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実践と言語活動の充実
 ウ 望ましい勤労観・職業観を育成と生徒一人一人に応じた進路指導を行う。
- (2) 道徳性と豊かな情操を育む
 ア 心に響く多様な指導を通して命を大切にする心や他者を思いやる心を育む。
 イ 規範意識を身に付け、善悪を判断し、自ら律する力を育む。
 ウ 我が国と郷土の歴史や文化・伝統を尊重する態度とグローバルな視点を育む。
- (3) 心身の健康を自己管理する態度を養う
 ア 基本的な生活習慣と正しい食生活を身に付けさせる。
 ※時間の厳守、挨拶の励行、掃除の徹底、端正な整容等の徹底
 イ 運動に親しむ態度を育み、体力を向上させるとともに、豊かなスポーツライフを実現・継続するための資質・能力を育む。
 ウ 生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、安全で安心な社会づくりに貢献できる資質・能力を育む。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	三課程（全定通）運営と学校経営の整合性を図る	本校のスクールミッションが三課程で共有化されているか。課程間の連絡、調整が継続的に図られているか。魅力的で特色ある学校づくりのための改善が進められているか。	教務部・進路部・生徒指導部・保健部等との情報共有化連携を強化する。三課程での連携協力体制の強化を図る。	・三課程教頭間で定期的に情報交換を行う。 ・三課程の主任主事等による教育活動の調整を図る。	A	三課程の教頭及び主任・主事の情報の共有化により、各課程の教育課程が円滑に実施できた。三課程の合同研修会については、スクールロイヤー講話を行い、弁護士の方から学校が抱える諸課題の解決に向けてどのように対応すべきかを法的側面から学び、教職員の生徒指導力の向上を図った。
	適応指導の充実	学年及び関係する分掌部が連携して具体的な取組が進められているか。	新入生への年間を通じた適応指導の充実。1年生の転学・転籍・退学者数割合10%以内。	・ソーシャルスキルトレーニングを実施する。 ・生徒理解研修の充実。 ・学年や各分掌部が問題行動のある生徒や不登校生徒に対して、担任を中心に組織で対応する。 ・定期的に合同朝礼や合同終	B	1年生でソーシャルスキルトレーニング、ストレスマネジメント講習を実施した。困り事での対応方法が学べ、対人関係に自信が持てるようになり、コミュニケーションが円滑になることでストレスが軽減され、充実した活動となった（1年）。 1年生の転学等の割合は、10.7%（1月末）である。

学校経営	業務改善 働き方 改革の 推進	勤務時間を意識して業務に携わっているか。 仕事の優先度、時間配分を考慮して業務に従事しているか。 効果的な会議の開催のために、資料作成や運営の工夫に努めているか。 教育課題の解決に組織的に取り組んでいるか。	全職員の1か月の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えない。 全職員の1年間の在校等時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が、360時間を超えない。	礼を行うことで、情報の共有化を図る。 ・職員は勤務時間に仕事を終わらせることを意識して業務を行う。 ・重要性や緊急性を考慮の上計画的に業務に当たる。 ・会議の開催を必要最小限にして、設定時間内で最良の結論を導く。 ・教育課題の解決には、全教職員が支援・サポートを行い、組織として対応する。	B	通常の業務については、職員の意識改革が進み、仕事の優先順位や時間配分等を考慮して業務を効率よく進めることができた。しかし、時間外の割合を多く占める生徒指導や保護者対応は依然として課題を残す状況で、主任・主事や担任等一部の職員が年間360時間を超過することになった。
	主体的・対話的で深い学びの中での思考力・判断力・表現力の育成	各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら知識を相互に関連付けてより深く理解する仕掛けのある授業となっているか。 情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決を考えたり思いや考えをもとに創造することに向かう過程を重視した授業となっているか。	アクティブ・ラーニングなど「協働的な学び」の視点を取り入れた授業を実践している職員の割合を90%以上とする。 その他、生徒の思考力・判断力・表現力等及び学びに向かう力・人間性等を伸ばす活動を取り入れた授業の実施率を90%以上とする。	・公開授業、研究授業を実施する。近隣小中学校からもアドバイスをいただく。 ・大学入学共通テスト対策を意識し、定期考査に思考力・判断力・表現力を試す問題を入れる。	A	アクティブ・ラーニング型授業を実施している職員の割合は <u>92.3%</u> である。生徒の思考力・判断力・表現力等及び学びに向かう力・人間性等を伸ばす活動を取り入れた授業の実施率は <u>96.2%</u> である。 公開授業に関しては、全教科担当で学びのUD化、ICT、観点別評価に関することをテーマに実施した。具体的には、 <u>他教科の授業参観や保護者の授業参観などを行った。</u> また、 <u>近隣小中学校や県立学校にも案内した。</u> 研究授業は学校訪問を含めて、2教科3講座で実施した。 思考力・判断力・表現力に関しては、 <u>定期考査では観点ごとに評価</u> できるようにしている。
学力向上	「学びのユニバーサルデザイン」の構築	多様化する生徒のニーズに応じた授業改善ができているか。	学びのUD化 with ICTの視点を取り入れた授業を実施率90%以上とする。 Chromebook等のICT機器を、効果的に授業で活用できている職員の割合を90%以上とする。	・学習の環境の整備を始めとする基礎的環境整備の充実を図る。 ・ICT機器を活用したユニバーサルデザインの見点を取り入れた研修を実施し、授業で実践する。 ・基礎学力及び学習習慣を定着させる。	B	学びのUD化 with ICTの視点を取り入れた授業の実施率は84.6%である。Chromebook等のICT機器を、効果的に授業で活用できている職員の割合は <u>61.5%</u> である。 ICT機器の活用に関しては、資料表示だけでなく、 <u>基礎学力の定着のために、これらの機器を利用して</u> いる教科もある。一方で、 <u>生徒の意見の集約や情報共有、課題の提出</u> などの効果的な活用については、 <u>職員の技量に左右される部分がある。</u> 次年度は、ICT機器の効果的な活用に焦点を絞り、公開授業や研究授業、

学力向上						職員研修などの機会を利用して、利用方法等の情報共有や改善を図る。
	「通級による指導」	学習または生活の困難に応じた対処法を身に付ける指導が図られているか。	受講した生徒全員が通級による指導を受けたことで、身に付けたスキルの内容を実感、理解できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「通級による指導」開始時点での生徒の長所と課題を明確にする。 ・1年間の長期目標と短期目標を受講生徒と共有する。1ヶ月に1回授業者と受講者間で、取組による成果を振り返る。 	B	受講生徒の担任や本人との話し合いなどによって、通級開始時点で生徒の長所や課題を明確にすることができた。ただし通級担当が年度途中で変更になり、引き継ぎが不十分であったことから、「1ヶ月に1回授業者と受講者間で、取組による成果を振り返る」ことができていなかった。今後は通級担当だけでなく情報の共有を図ることが必要である。
	単位制の特徴を生かした教育課程の検討	学校の教育目標を踏まえたカリキュラム・マネジメントを推進しているか。	教育課程検討委員会を適宜行い、新学習指導要領への完全移行や入学生増加などの課題を見据えて授業の精選を行う。教科書選定委員会を行い、学校や生徒の実態に即した教科書選定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の目標や内容の見直しを行い、言語能力・情報活用能力・問題発見解決能力等の育成を図る。 ・教育内容や教育活動の質の向上を検討する。 	B	教育課程検討委員会を5回実施した。次年度の教育課程の検討や教科書選定などを行った。学校や生徒の実態に即した教育課程、カリキュラムの検討に関しては、総合的な探究の時間をどのように取り扱うかが課題となっている。そのため、教務部からの提案をもとに、教科の意見を集約しているところである。今年度中には方向性を定めて、次年度には本格的な検討を行う。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の推進	社会経済の変化を踏まえ、社会的・職業的自立に向けた能力・態度が育成されているか。	進路講話・職場見学・進路ガイダンス・ボランティア活動を通して具体的イメージ（職業観）を持った生徒の割合を80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関が主催する事業や地域・保護者及び産官学との連携を図り、校内の取組を連動させて実施する。 ・キャリアパスポート記入を通してPDCAサイクルの確立を図る。 	B	3年生については職場見学やオープンキャンパスへ参加し、内定や合格につなげることができた。今年度は特に就職希望者が1人あたり2社以上見学に行くことができた。キャリアパスポートの記入を年6回行い、生徒が振り返りを行う機会を作ることができた。
			校内外の行事や・インターンシップを通して働くことの意味や意義を考え将来の進路目標を定めた生徒の割合を80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・職業講話等の事前指導、事業所との事前の打合せや、電話のやりとり、礼状の送付等を含め、活動の全体で大きな学びが得られるようにする。 	B	2学年のインターンシップの実施および事前・事後指導を学年と連携して行う時間があまり取れなかった。早期計画や学年会の実施等流れを明確にする必要がある。進路目標を定めている生徒は92.3（昨年度91.3%）となっている。昨年度のインターンシップから就職につなげた3年生もいた。
			働くことの意義を理解するとともに自身の将来像を現実的にイメージし、行動に移す生徒の割合を80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職ガイダンスへの積極的な参加を通して、望ましい職業観の形成を図り進路実現につながる積極的 	B	ガイダンスの実施回数は増加し、1年生の職業体験ガイダンスや3月実施予定の進路ガイダンスなど、校外への参加もできた。意味や意義を考える機会を作ることができた。将来の進路については各学年とも80%

キャリア教育 (進路指導)			とする。	かつ具体的な学習に取り組ませる。		以上の生徒が目標を定めることができた。
	進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進が進路目標の達成につながっているか。	進路希望調査・適性検査などを通して進路目標を設定した生徒の割合を60%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談・三者面談・進路部面談等を計画的に実施するとともに、各種調査結果などを活用して、生徒の自己理解に生かす。 ・キャリアパスポート記入を通して、日頃から自らの活動を振り返る習慣を付けさせる。 	B	<p>キャリアパスポート記入を通して学習や生活の見通しを立て、振り返ることで意欲向上に繋げることができた。</p> <p>キャリアサポーターによる面談やキャリア別終礼での講話を実施している。</p> <p>1・2年生の進路希望調査では目標設定をしている生徒は昨年度とほぼ同数で90%以上となった。</p>
		基礎的な学力の向上を図るとともに、進路情報の提供と進路別学習機会の充実に努め、生徒の進路選択の幅を広げられているか。	学校評価生徒アンケートで「学校が進学や就職に関する情報や資料を提供してくれている」と回答した生徒の割合を80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校生のための学びの基礎診断」を活用することで、個に応じた学習指導や進路指導を行う。 ・学びなおし教材を1年生の授業で活用する。 ・ICTを活用した情報収集や学習、情報の受発信ができるようにする。 ・授業改善を図るための職員研修を実施する。 	B	<p>放課後学習会の実施、個に応じた添削指導、面接指導などを定期的な指導に繋げる計画ができた。</p> <p>Chromebookを活用した進路希望調査、3年生の志望理由書提出など行うことができた。求人閲覧・検索ができる「Handy進路室」や進学希望者への模擬試験対策などもできた。</p> <p>「学びの基礎診断」をもとに職員研修を実施することができた。ICTを活用して、より充実した内容の学習ができた。進学希望者対象に学習会説明会を実施し、模擬試験受験者が10%程度上がった。</p> <p>1月に1年生向けの進路説明、2月に3年生の合格体験発表会、3月の1・2年生向けの進路ガイダンスを実施予定である。</p>
生徒指導	基本的な生活習慣の確立（特に時間を守る取組）	生徒が健全に社会に適応できる生活をしているか。	遅刻、整容面で校内での指導件数を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら当たり前な行動や、身だしなみを整える意識を向上させる。 	B	整容検査での違反者の件数は減ってきているが、常日頃の整容の意識に生かされていない。今後は、日常的な声かけを取り入れて指導していきたい。
	学校愛向上に向けての意識つける。	規範意識の高揚、友愛・連帯の精神を養おうとしているか。	生徒総会を年間1回開催する。委員会活動を毎月開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会を実施し生徒の自主性を伸ばす。 ・委員会活動を実施することで委員会活動の活発化と自発的行動欲を向上させる。 	B	月に1回の委員会の定着は生徒の意識を変えているようであるが、学校全体の自主性につながる総会までは意識の変化がおいておらず、今後は、生徒自身が学校を変えていく自覚を持てていきたい。
	自他を尊重し、互いに協	生徒同士が互いを尊重し、協調しながら生活すること	特別な指導の対象となる生徒の数を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な指導にならないように事前に気づかせる指導を 	B	「特別な指導」の件数が今年は多く、4月から12月までは途切れることがなかった。自己肯定感が低い生

	力する態度や遵法精神の育成	ができているか。		おこなう。 ・SSWやSCと連携を図る。		徒が多く、「否定される」、「否定する」ことから物事をとらえていく考え方を、多方向との連携を取りアドバイスしていきたい
	交通安全意識の確立、交通法規の理解と交通マナーの向上	交通安全の意識が向上しているか。交通事故・違反が減少したか。無施錠自転車が増えたか。	自転車通学生のヘルメット着用義務化に向けて着用率を増やす。交通事故発生件数の減少と二重ロックの達成率を90%以上にする。	・交通安全教育講話の実施と交通委員会の活動の充実を図り、ヘルメット着用を呼びかけていく。 ・二重ロック及び無許可自転車指導を徹底する。	B	大きな事故はないが、安全意識を高めてほしい ヘルメットの着用率を上げるため、ルールを押しつけるよりも、必要性を伝えて着用率アップにつなげていきたい。
人権教育の推進	人権の重要課題の学習	人権尊重の精神に立った学校づくりが推進されているか。生徒と教職員が共に人権の重要課題を理解し、日頃の教育に実践しているか。	・LHRの時間を活用し、各学年で同和問題や水俣病などの重要課題について学習する。	・LHRの時間を活用し、各学年で同和問題や水俣病などの重要課題について意見を述べ合うことでそれぞれの考えを深める。	B	・LHRの時間を活用し、担任の先生を中心に、各学年で同和問題や水俣病などの重要課題について学んだ。生徒は互いに意見を述べ合うことで、人権意識を高めることができた。人権問題を自分の問題として考え、主体的に意見を出し合い人権問題に関わる姿勢を育んだ。 ・人権教育職員研修を実施した。教師が教育現場において互いの人権を守るために必要な法律について学んだ。
	命を大切にすることを育む指導	すべての教育活動の中で、「命を大切にすることを育む指導」の視点に立った教育実践がなされているか。多様な指導を通して命を大切にすることを思いやる心を育てているか。	・生徒向け人権教育講演会を開催し、人権の重要課題について理解を深める。 ・すべての授業で、生徒が自他の特性を自覚し主体的に学習に取り組めるように授業の工夫や改善を行う。	・生徒向け人権教育講演会を開催し、自他を大切にすることを育む。 ・生徒が自他の特性を自覚し、主体的に学習に取り組める授業への工夫・改善を行う。 ・人権啓発作品を作成することにより、自他を思いやる心を育む。	B	・生徒向け人権教育講演会を行い、生徒は自己肯定感を高め、自他を大切にすることを育んだ。 ・生徒は長期休業中の課題として人権啓発作品を作成し、「命を大切にすることを育んだ」
いじめの防止等	いじめ防止対策委員会を核とした職員間の連携	担任・学年団・関係者からの「いじめ」の情報を逃さないように初めから対応ができているか。共有した情報をもとに学校内で連携が成されているか。	いじめ「0」を目指すのではなく、見逃し「0」を目指す。いじめ防止に係る初期対応を速やかに行う。	・いじめ問題への対応マニュアルの職員への周知を図り全職員で共通理解と防止に取り組む。 ・LHRでいじめに関する時間を設けていく。 ・心のアンケート実施後、または、いじめ	B	「いじめ」の件数を「0」にすることはできなかったが、生徒の声に対する対応は共通理解の中で進めていくことができていた。生徒の中では、コミュニケーションをとることが苦手な者もあり、職員の聞き取りや対応の中で、相手の気持ちや言動を理解していく生徒もいるので、「いじめ」の調査から生徒を知る、または育てることが、今後の

				が疑われる事案を察知したら、速やかに担任は生徒への聞き取りを行う。		いじめの実態の変化につながっていくのではないかと思われる。
心身の健康	望ましい生活習慣の定着化を図る。	自分の生活習慣に関心を持ち、行動変容への意欲を高められたか。	自分の生活習慣に関心を持ち、改善していかうとする生徒の割合を80%以上とする。	保健だより作成（年6回）及び文化祭発表を実施し、望ましい生活習慣について啓発を行う。	B	保健だよりを年6回発行し、文化祭発表では身近なケガの手当を含めた自己管理について啓発を行った。手当各種講演会を企画し、97.6%の生徒が今後の生活に活かしていきたいと答えた。
性教育	性に関する正しい意識の定着や向上	生徒の実態に沿った集団指導の実施や必要に応じて個別指導を実施でき、性に関する興味関心を高められたか。	性教育講演会や性教育推進週間を実施し、内容の理解ができた生徒が80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・性教育推進週間及び性教育講演会を実施する。 ・健康観察の実施の結果、個別指導が必要な生徒への対応をする。 	A	性教育講演会を実施し、97.1%の生徒が思春期のころと性について理解が深まったと答えた。性教育推進週間では、朝読書で生徒の実態に沿った記事を読ませた。性に関する相談は適宜個別に指導し継続し対応を行った。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	熊本地震を教訓として、災害時の地域との連携体制の構築や防災教育の充実	学校運営協議会を通して、関係機関と連携しながら、防災対応について整備が進むとともに、防災教育の充実が図られているか。	1年間でスモール訓練を3回、避難訓練を1回実施する。熊本シェイクアウト訓練を1回実施する。「ぼうさい通信」を3課程が協力して、毎月発行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を開催して各委員より御意見を伺いながら、地域防災や防災教育についての取組を充実させる。 ・避難訓練の実施や、「ぼうさい通信」の発行により、生徒の防災意識を高める。 	A	各取り組みについては、年間計画通りに実施できた。スモール訓練・三課程合同の避難訓練についても、防災担当者からその都度、生徒の心を育む講話を行った。また、学校運営協議会各委員より御意見をいただいた内容を地域防災、学校の防災教育に活用できるよう取り組んだ。
	開かれた学校作り	広報活動を効果的に実施しているか。	中学校への情報発信を充実させる。家庭に学校の教育活動の理解を図る。ホームページを速やかに更新する。災害対応、重要な連絡等を早く、確実に伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学や中学校での高校説明会、中学校訪問を充実する。 ・湧水（学年広報誌）を三ヶ月に一回配付する。 ・学校HPを速やかに更新する。 ・情報発信において安心メールを活用する。 	A	湧水は計画通りに発行した。学校行事や各部活動、ボランティアの取り組みについても、その都度更新して生徒の様々な活動を紹介できた。また、緊急時連絡及び育友会の連絡、奨学金・進路関係案内をすぐるの活用において行った。
		地域社会に、学校をPRしているか。地域に貢献しようとする生徒の態度が育まれているか。	ボランティア活動への生徒の参加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内や地域のボランティア活動に関する情報提供を行い、意欲的な参加を促す。 	A	本校のボランティアへの取り組みは、これまでの実績から、高い意識を持って参加してきたことがわかる。担当者の積極的な取り組みが、本校生徒に伝わり自主性を育てている。

4 学校関係者評価

(1) 本校の学校運営及び教育活動の取組とその成果について、保護者、生徒へも高い評価をいただいていることに賛同をいただいた。また、保護者に学校の取組への理解を図り、家庭と学校が共に協力して生徒の教育活動を推進していくために家庭教育への支援について助言をいただいた。

(2) 本校のいじめ見逃し「0」を目指して対応していることに賛同及び感謝の言葉をいただいた。家庭との連絡を取り合って、関係機関との連携も踏まえた学校組織としての取組や対応の充実について言及された。特にいじめ問題については、重大事態にならないよう一層、普段からの観察及び相談体制の充実や生徒の困り感に丁寧に対応するなどの初動を大切にする助言をいただいた。

(3) 生徒家庭調査について言及され、家庭環境の把握の提言を受けた。ヤングケアラーの問題を心配され、生徒の出欠や様子の変化が見られる場合、関係機関と協議した上、専門機関への通告を行う助言をいただいた。生徒の学校生活への目配りを教員へ助言された。

(4) 本校のボランティア活動の取組について高評価をいただいた。是非、継続して奉仕の精神を学んでほしいという願いがあり、年間を通して活動できる体制づくりの提言を受けた。青少年赤十字の活動は、募金活動だけでなく、国際交流研修や高校席連絡協議会の参加もでき、多くの高校生との情報交換ができ、学び多い活動であると助言を受けた。

(5) 地元地域の代表者の方からは、地域の祭りのボランティア活動や清掃活動に大変感謝されているとお褒めの言葉をいただいた。地元地域としても学校へ協力を惜しまないという評価をいただいた。今後もコミュニティスクールの制度に則した「地域とともにある学校づくり」の推進について助言等をいただいた。

5 総合評価

(1) 主体的・対話的で深い学びの中での思考力・判断力・表現力の育成を目指して、アクティブラーニングなど「協働的な学び」の視点を取り入れた授業に取り組んだ。また、公開授業に関して、全教科担当でＩＣＴ機器の活用、観点別評価に関することテーマとして実施し、参観者と意見の交換を行った。学校行事は年間を通して、通常通り各種行事等も開催され、教育活動の充実を図ることができた。また、朝読書は年間を通じて取り組み、教室棟２階屋上防水工事期間中、教室移動の期間において、移動図書館として本を貸し出し可能な工夫を行い、生徒の習慣づけを図った。今後とも、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「最適な指導・支援や合理的配慮」を行い、調和の取れた生きる力を備えた総合的人間力の育成に努める。

(2) 学校生活においては、基本的生活習慣の確立を目指して整容指導や遅刻指導等に全職員で生徒の生活指導に取り組んだ。学校の教育活動の全般に渡って粘り強く、生徒の心に働きかける指導を実践した結果、教師の指導に対して素直に応じる生徒の姿が見られた。

(3) 生徒が授業中に集中できる環境の構築と「学びのＵＤ化」や「ＩＣＴの効果的な活用」での授業改善の取組を各教科で実施し、探究学習における成果がキャリア教育にも結びついている。課題としては、生徒の遅刻や授業の出席状況により家庭教育を含めた保護者との連携と時間厳守の態度の育成を引き続き行っていく必要がある。

(4) 生徒や保護者のニーズに合わせた教育活動のあり方について社会や環境の変化に応じた学校運営が求められる。また、部活動の活性化や学び直しの視点など学校の魅力化発信にも引き続き努めていく必要がある。

(5) ３年生は職場見学やオープンキャンパスへ参加して、内定や合格につなげることができた。２年生はインターンシップを通して働くことの意味や意義を考え、具体的な進路目標を定めることができた。１年生は進路講演会や職業体験フェスタに参加して進路意識を高めることができた。また、ボランティア活動においては、今年度も多くの活動実績を残し、Ｔ１パークマガジンのヘッドラインニュースに取り上げられる活躍であった。しかし、進路情報を含め、教育活動の状況が保護者に十分に伝わっていないこともアンケート調査で分かった。引き続き、家庭との連携及び保護者への発信の充実がなされるように努めていく。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて探究学習を充実し、生徒のニーズに合わせた徳・体・知の調和のとれた人間形成のための教育活動の充実を図る。

ア 基本的人権の尊重が具現化されるように、いじめ問題をはじめとした人権課題解決のために人権教育の充実を図る。

イ 社会規範を遵守する態度を育むために、時間厳守等の基本的生活習慣の確立に向けた生活指導を推進する。

ウ 新学習指導要領の理念に基づく学習指導の展開に際し、単位制の特色を活用して個のニーズに応じたカリキュラム編成を行う。

エ 総合的な探究の学習において、地域の人材や学びの場を活用した体験的学習活動の充実を図る。

(2) コミュニティスクールを推進し、学校運営に地域の声を生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていく。

ア インターンシップやボランティア活動を通じて、地域での体験的な学びの機会を増やし、生徒のコミュニケーション能力の向上や自尊感情や郷土愛の醸成を図る。

イ 保護者や地域住民のニーズを教育活動に反映させるため、学校からの情報発信については、ホームページや地域の掲示板等の活用を図り、意見の収集についてはＩＣＴの効果的な活用等を充実させる。

ウ 近隣学校との連携を図るとともに地域防災の中核を担い、災害に備える訓練と災害発生時の対応について地域住民に貢献する。

(3) 教職員の働き方改革の推進。

学校運営を支える教職員の働き方改革の取組は引き続き重要な課題である。学校独自の業務については、合理化や平準化を進めることで軽減が進んでいる。教職員の心身が健康な状態で生徒、保護者に接する時間を十分に確保するためにさらなる業務の見直しや、保護者、同窓会、地域からの教育活動に対する支援体制を活用し、チーム学校としての機能強化を推進していく。